

# 埼玉県納税貯蓄組合総連合会 優秀賞

税が与えてくれる力

豊岡中学校 三年 中村 碧音

「十月一日から消費税の値上げが予定されています。そのような中、私たちの生活はどう変わるのでしょうか。まずは・・・」

二〇一九年、このようなニュースが多く報道されました。私たちの暮らしている日本では、消費税が八パーセントから十パーセントに上がりました。当時小学五年生だった私は、税がどのようなに使われているのか知らないまま全てのものに税が当たり前についていると思っていて、その大切さに気づけませんでした。ニュースを見て税をとても身近に感じ、母に税がどのように使われているのかを聞いてみると、

「実はね、あなたもみんなが払っている税から出ている医療費で、生まれたときからとても助かっているんだよ。」  
と言っていました。

私はそのことについてあまり覚えていませんが、生まれたときに酸素が足りず、新生児仮死状態で生まれてきたため、保育器に入つて二週間の入院が必要になりました。そのとき病院の先生から、「治療にかかる費用が高額になるため、早急に出生届を出す必要があります。」

と言われました。そして、税からできている高額医療助成制度を利用できたため、本当は百万円以上もする治療を受けることができま

した。そのような制度が税によってできていると知って、私たちは生まれてからずっと、自分や誰かが払っている税に支えてもらって生きていると気づきました。さらに税の使われ方を調べてみると、私たちが長い間使っている教科書や、理科の実験道具を用意するためにもたくさんの税が使われていると知りました。その額は、財務省のホームページによると小学生、中学生、高校生それぞれ一年間で使われて税は、いずれも一人あたり百万円を超えるそうです。現在日本では多くの人が購入する日用品や食品などにかかる商品一つあたりの税は、百万円に到底及びません。私たち学生一人一人が、教科書や実験道具などに多くの人が払う税から形を変えてそれぞれ受け取っているということです。

税作文を書く機会を頂いたことで、税を払うことと使われることは、自分が思っている以上に生きるための助けになっていることを改めて感じる事ができました。税は大人だけではなく、私たちも払っています。普段は互いに存在を知っているといえる人である友達との勉強の教え合いや、手伝いをし合うなど直接助け合って生きています。しかし、困っている人は身の回りにいる人だけではありません。それでも、別の地域に住んでいる人との直接の助け合いは難しいことがあります。ところが、税は誰かがどうしても必要な時に使われ、助けになるのです。税を払うことで必ず誰かの生きる助けになれると思うと、私も生きていくための元気をもらえる気がします。